

よくわかる、

ぎよかん

漁観連携の取り組み

vol.3



鳥羽市・漁業と観光の連携促進事業（漁観連携）とは、鳥羽の主要産業である漁業と観光業が連携を図り、漁業者と観光業者が抱える課題を出し合い、課題解決に向けた取り組みを実施することで、漁業と観光、ひいては鳥羽が元気になることを目的としています。

鳥羽市観光協会 ☎ ㊟ 3019

鳥羽磯部漁業協同組合 ☎ ㊟ 2328

観光課 ☎ ㊟ 1155

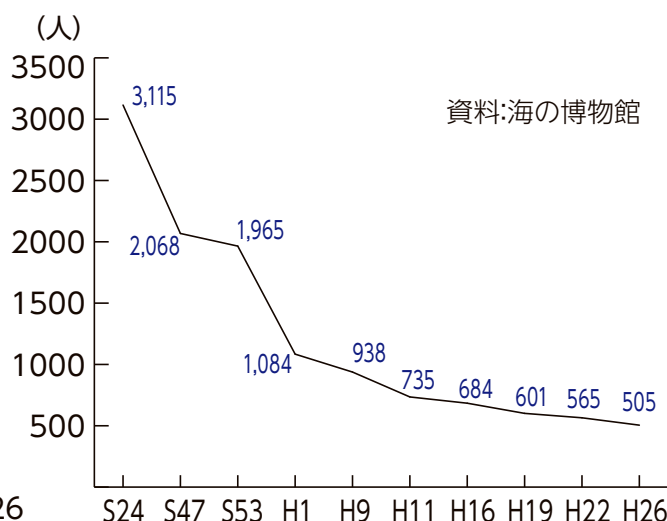
鳥羽市といえば、日本一海女の多いまちです。海女は忍者と並び世界に誇れる日本の文化・伝統のひとつであると言えます。海女は、3,000年の歴史の中で育まれてきた伝統的な素潜り漁をなりわいとし、三重県ブランドとしてこの地域を代表する高級食材のアワビを主に収穫します。

しかしながら、近年では、アワビの漁獲量は著しく減少しており、またそれに伴って海女の人数も減少の一途をたどっています。

アワビの漁獲量



海女の人数



漁観連携では、海女の大きな収入源であるアワビ資源の増殖にむけても積極的に取り組んでいます。今年度は、アワビの専門家でもある東京海洋大学の山川先生にご意見をいただきながら、以下のことについて協議をしています。

1

アワビ種苗
放流数の増加

2

アワビ種苗の
大型化

3

漁場の整備

4

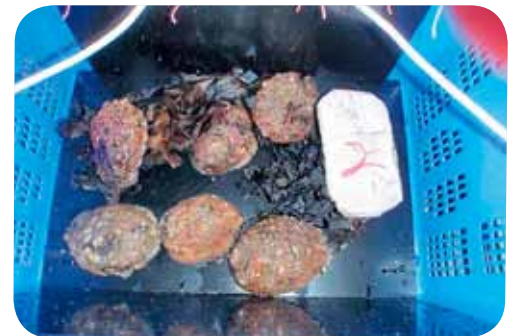
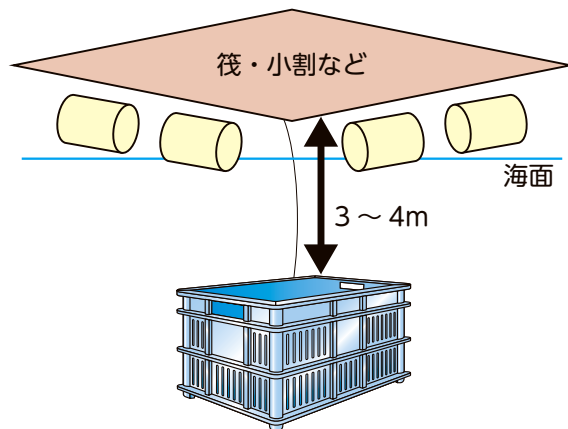
新たな手法の導入・
アワビの活用

アワビ増殖・出逢いプロジェクトの実施

アワビの減少の原因は、さまざまな要因が考えられていますが、そのひとつとして繁殖時期のアワビの個体数密度が低くなっていることが考えられます。研究により、アワビの繁殖には一定の範囲に高密度の個体数が必要であることが分かっています。そこで、大きな投資をしなくても可能な増殖方法として、垂下式の SPASIP 法を考案し、繁殖時期のアワビの産卵促進を行うことでアワビの増殖を目指します。この全国でも初めてとなる方法を用い、漁業者のみなさんが守り続けている鳥羽の豊かな自然環境での自然増殖を試みるものです。

SPASIP法とは

Sea-farming Projects of Abalone Seed by Inducement in Pacchinkago の頭文字を取って名付けました。日本語訳は、「パッチンカゴを用いたアワビの産卵誘発による種苗放流」です。その名のとおり、パッチンカゴにアワビの雌雄を入れ、筏や小割などに吊り下げることによってより多くの産卵誘発が期待されます。



パッチンカゴに入れたアワビ

鳥羽の明るい未来へつなげるために



鳥羽市・漁業と観光の
連携促進協議会
会長 吉川 勝也

鳥羽市は観光と漁業が共存している数少ない地域であり、年間400万人が訪れる観光地にして、漁業も盛んに行われています。旅行者にとって『食』は鳥羽の最大の魅力と言えます。

しかし、近年、魚価の低迷や漁業における収入の不安定さ、後継者不足が問題となっています。本事業は漁業と観光業が連携し、両者が同じテーブルで議論をすることによって、現状を正しく理解し、共通認識をしっかりと持って推進して参りました。

少子高齢化時代の今、その地域の持つ資源を業界を超えて再度見つめ直し、生産力向上につなげていくことが大切であると考えます。漁業と観光が連携し続けることで、地域性豊かな「海洋資源」や「食」を次世代に継承し、地域の住民、若者が鳥羽市に誇りを持てるようなまちづくりに貢献していきたいと考えています。

関係者の皆様の一層のご支援と鳥羽市民の皆様のご理解とご協力のもと、今後も漁観連携事業を積極的に実施し、鳥羽市の明るい未来へつなげていくために、まい進して参ります。